

調査報告

学生の幼児期における「食育」の思い出調査

古 郡 曜 子・上 羽 緑・高 橋 真記枝

Investigation of "Shokuiku" Memories of Our Junior College Students in their Infancy

FURUGORI Yoko, UEBA Midori and TAKAHASHI Makie

I はじめに

2008年に「保育所保育指針」(厚生労働省)の改定¹⁾があり、これまで記されていない「食育」を明記される案が出されている。乳・幼児期において、食べることの楽しさや大切さを体験することは、一生の健康と密接に関わっている²⁾。現在、このことをふまえて、保育者の食育実践力が求められている。保育者養成においても、育成項目の一つとすべきであろう。

筆者らは、2006年に「本学学生の幼稚園・保育所における食の思い出調査」を行った。その結果³⁾から、幼稚園・保育所での食事に関わる様子や良かった・楽しかったこと、怒られたこと・いやだったことの傾向を知ることができた。

そこで、本研究ではその結果をふまえて本学学生の幼稚園・保育所における「食育」に関する思い出の調査を行い、「食育」実践力育成の

ための基礎資料にすることとした。

II 調査方法

調査対象者は本学幼児保育学科1年生とした。調査は2007年4月6日の入学直後に行い、学生が「小児栄養」講座の影響を受ける前とした。選択肢による質問紙法を用い、幼児期に受けた「食育(学生の幼児期には食教育)」の思い出の傾向を把握した。質問は「幼稚園・保育所での食育の思い出」に重点をおいた(資料)。質問項目は先行研究^{3) 4)}を基に設定した。

III 調査結果と考察

1 属性

男子学生が25名、女子学生が65名、不明が1名で合計91名であった。すべてが有効回答であった。

「幼児期における食事の世話をしてくれた主な名」(複数回答)は、「母」が95.6%、「祖母」が22%、「父」が15.4%であった。「幼児期の通園先」は、「保育所」が40.1%、「幼稚園」が56%であった。通年期間は「1年間」が3名(3.3%)、「2年間」が37名(40.7%)、「3年間」が32名(35.2%)、「4年間以上」が15名(16.5%)であった。

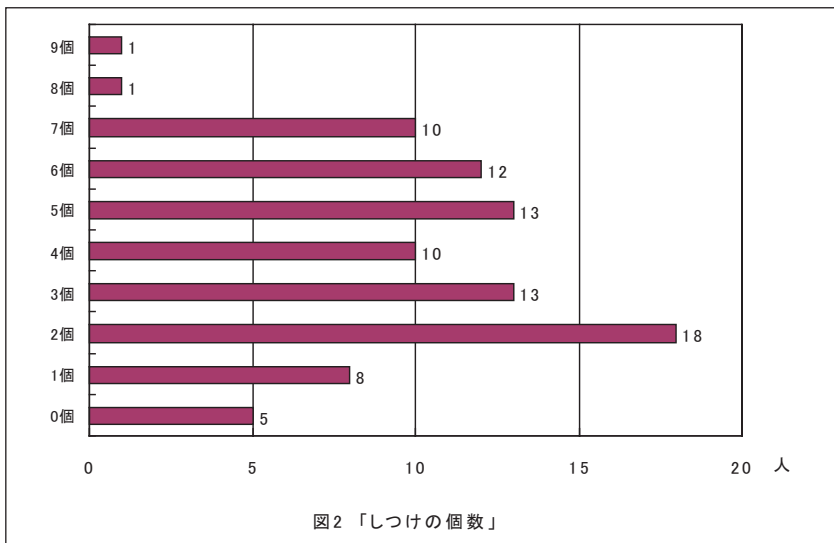
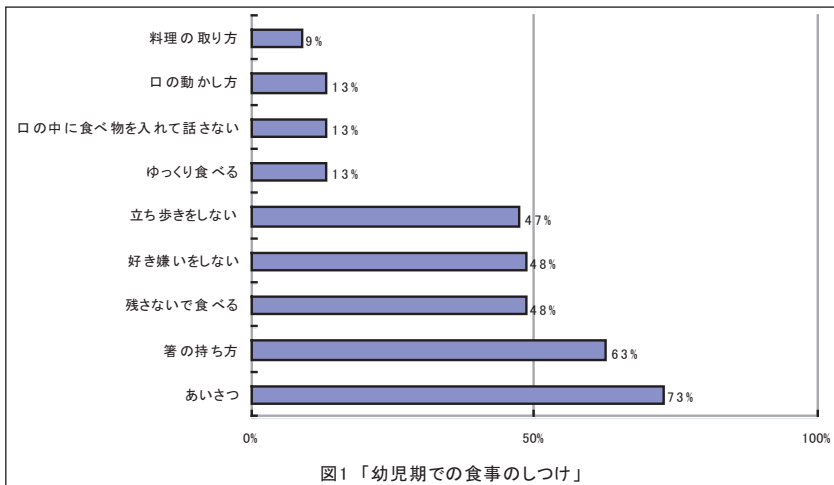
2 食事のしつけと食事の思い

「幼児期での食事のしつけ」に関する思い出の結果(複数回答)を図1に示した。「いただ

きます・ごちそうさまのあいさつ」が73%、「箸の持ち方」が63%、「残さないで食べる」と「好き嫌いをしない」が48%、「立ち歩きをしない」が47%であった。総数は337回答であり、「しつけの個数」の名数を図2に示した。

「記憶にない、しつけられていない」と推察されるのは5名だけであり、最も多い2個の18名をはじめとして、何らかのしつけをされた記憶がある学生が多かった。

荒井・清水・中矢の報告⁵⁾では、食卓のしつけに関して「家庭は細かく指導しており、食事作法の質を低下させていない」と考察している。



本調査結果では、幼児期の思い出として「あいさつ」や「箸の持ち方」などの食事のしつけを記憶していることがわかった。幼児期における食事のしつけは成されており、「あいさつ」において効果的であることが推察できる。

現在の食事に関する考えとして、「これまでの食事は充実している」の結果を図3に示した。「していた」、「大体していた」を合計して87%の回答があった。

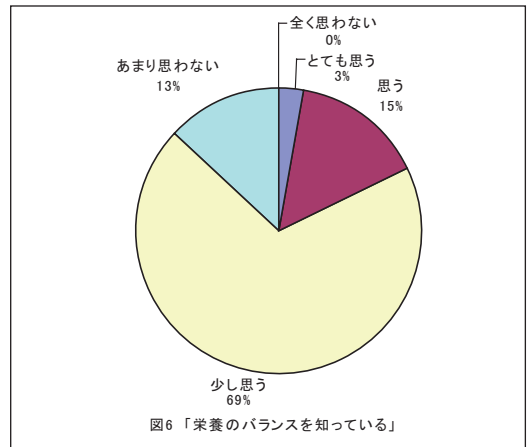
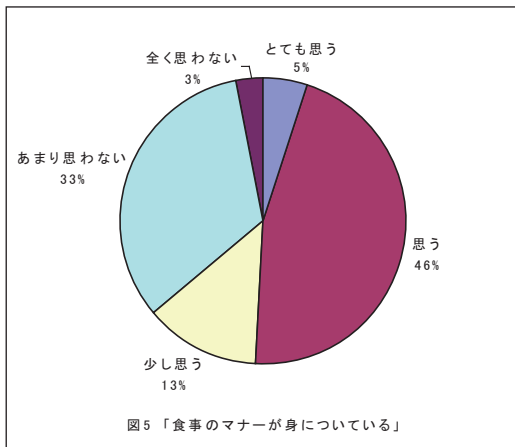
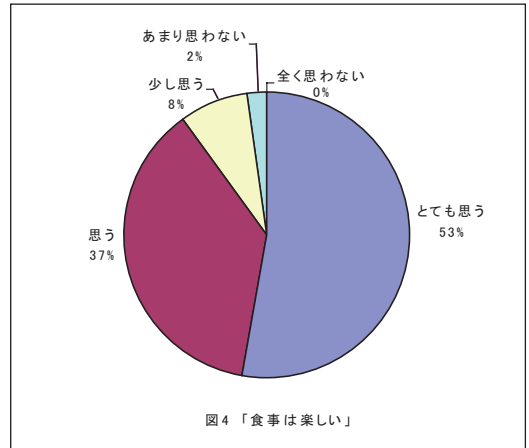
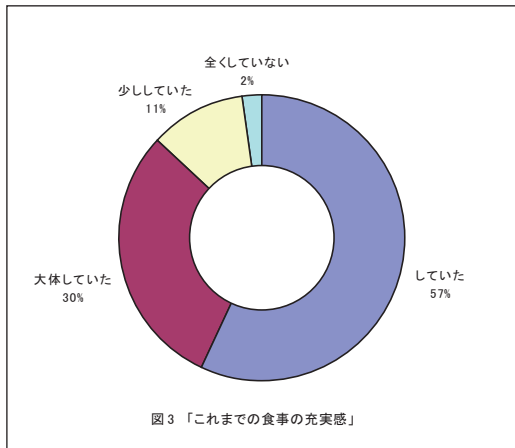
次に、「食事は楽しい」の結果を図4に示した。「とても思う」・「思う」を合計すると90%であった。近年、孤食が問題とされているが、ほとんどの学生が食事の楽しさを感じていることが分かった。ただし、10%の学生が「少し思う」・「あまり思わない」と回答していることは憂慮

すべきことである。

「食事のマナーは身につけている」の結果を図5に示した。「とても思う」・「思う」を合計して51%であり、「少し思う」、「あまり思わない」、「全く思わない」と回答した49%の学生にマナーへの自信のなさがうかがえた。

「食事のバランスを知っている」の結果を図6に示した。「とても思う」・「思う」の合計が18%、「少し思う」が69%であった。「あまり思わない」と合計すると82%の学生が、「食事のバランスを良く知らない」という結果であった。以上の結果から、「楽しい食事」は感じているが、「食事のマナー」や「食事のバランス」を取り入れたしつけ（食育）が必要と思われる。

これらの結果から、現在の「食べたいときに



食べたい物を食べられる」という食をとりまく豊かな環境の中で、学生が「マナーや栄養バランスは不十分」と思っていることが推察できた。

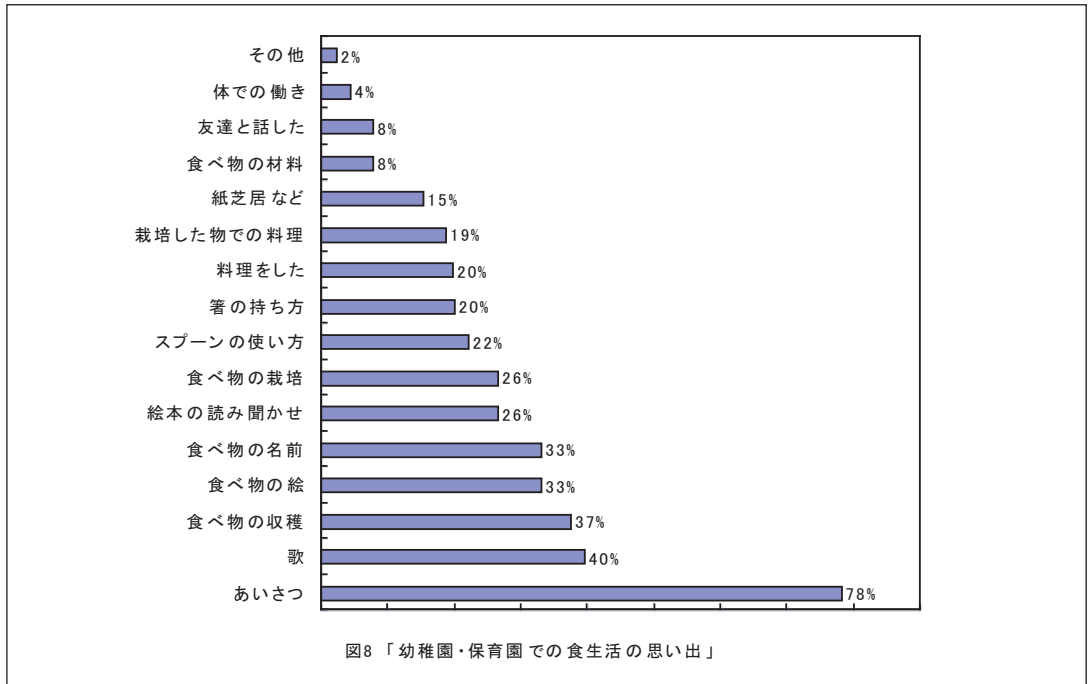
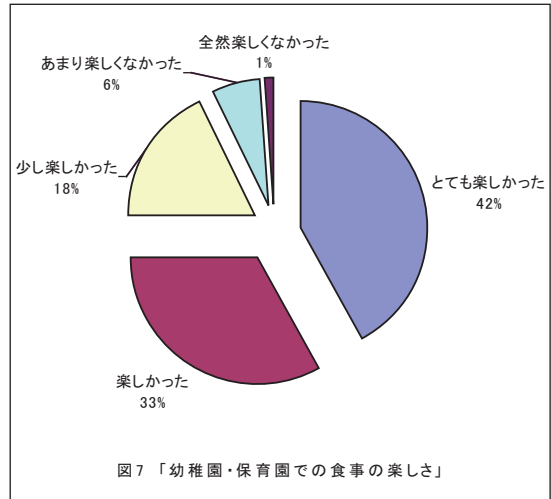
3 通園先での食事の思い出

「保育所・幼稚園における食事に関する思い出」の結果は、次のとおりである。

「食事の楽しさ」を図7に示した。「とても楽しかった」・「楽しかった」を合計すると75%であった。一方、「少し楽しかった」・「あまり楽しかった」の合計が25%であった。保育所・幼稚園での食事に関して「楽しくない思い出」は憂慮すべき結果である。

「食生活の思い出」の内容についての結果(複数回答)を図8に示した。総数は354個であった。91名の回答を100%として「いただきます・ごちそうさまのあいさつ」が78%、「食べることにする歌を歌った」が40%、「食べ物を収穫した」が37%、「食べ物の絵を描いた」・「食

べ物の名前を教わった」が33%であった。学生は、これらの食に関するしつけや体験を思い出として残していた。一方、「体での働きを教わった」4%、「友達と話した」・「食べ物の材料について教わった」が8%と少ない値となった。今後、これらに関する食育⁶⁾の必要性とその方法を検討すべきと思われる。



4 通園先での食事に関する印象

「保育所・幼稚園における食事に関する出来事」を、「いやな思い出」・「覚えていない」・「楽しい思い出」に分類した結果を図9に示した。

「楽しい思い出」の最も多い数値は「みんなで食べる」85%で、共食の楽しさを印象として残していた。次に、「お弁当に関すること」が41%で、「食べ物に関する絵本や紙芝居などを見た」が41%、「料理を作ること」が40%であった。

「覚えていない」の平均は59.2%で、「みんなで食べる」以外は何の項目においても印象に残りにくく、食事の印象よりも「あそび」など他のことへの印象が強く残っていることを推察できた。

「覚えていない」の最も多い数値は「食べ物

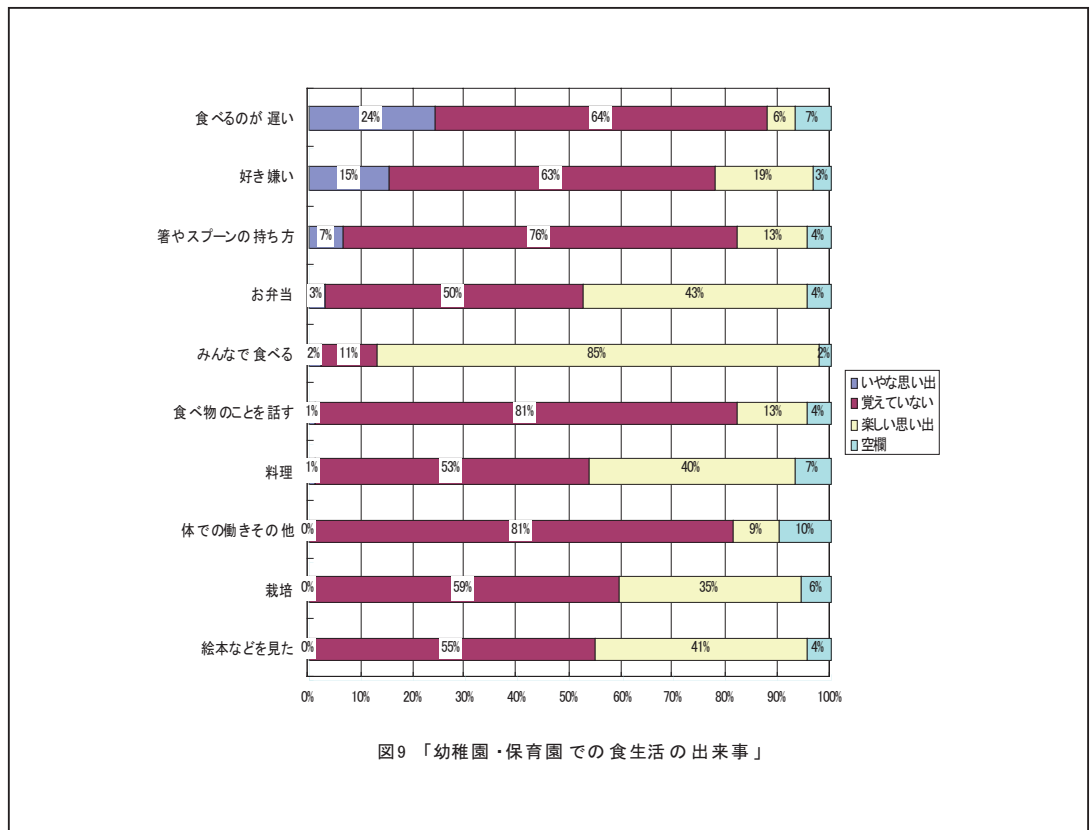
の体での働きを知ること」と「食べ物のことを話す」81%で、次に「箸やスプーンの持ち方」76%であった。この結果は、今後の食育の視点や重点を考える参考としたい。

「いやな思い出」としては、「食べるのが遅い」24%、「好き嫌い」15%、「箸やスプーンの持ち方」7%であった。これらの数値は低いですが、幼児期の食事へのいやな思い出に関する研究が必要と思われる。

以上、筆者らの先行研究を再認識し、食育の視点を方向付ける結果を得ることができた。

IV まとめ

本研究では本学学生の幼稚園・保育所における「食育」に関する思い出の調査を行った。結果は次のとおりである。



- ① 幼児期のしつけの思い出としては「食前・食後のあいさつ」が73%、「箸の持ち方」が63%であった。
- ② 食事を楽しいと思う学生は90%であった。
- ③ 食事のマナーが身につけていると思う学生は51%であった。
- ④ 食事のバランスを知っていると思う学生は18%であった。
- ⑤ 幼稚園・保育所での食事のしつけの思い出としては「あいさつ」をして食べることが78%であった。
- ⑥ 楽しい思い出は「みんなで食べる」ことが85%、いやな思い出は「食べるのが遅い」ことで24%であった。

これらは「食育」実践力育成のための基礎資料とする。今後は更に詳しい調査を行い、具体的な食育実践へと結び付けたい。

引用・参考文献・HP

1) 厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/06/s0604-2.html>

- 2) 平成19年版食育白書 内閣府 社団法人時事画報 2007
- 3) 上羽 緑・古郡曜子 本学学生の幼稚園・保育所における食の思い出調査 北海道文教大学研究紀要第31号 2007 pp.85~92
- 4) 上羽 緑・古郡曜子 本学学生のマナーに関する調査 (1) -食事マナーについて- 北海道文教大学研究紀要第27号 2003
- 5) 荒井三津子・清水千晶・中矢雅明 現代の食事作法-家庭の教育と新しい方向性- 北海道文教大学研究紀要第31号 2007 p.48
- 6) 保育所における食育研究会 編 子どもがかがやく乳幼児の食育実践へのアプローチ 財団法人日本児童福祉協会 2006

(2008年1月22日受稿)

資料 1

小児栄養 アンケート

オ (男 女)

2007年4月

1 あなたの幼児期(小学校入学前)の様子を教えてください。

(1) 住んでいた所はどこでしたか。

() 都道府県 () 市・町・村

(2) あなたの食事の世話の主な人は誰でしたか。1人または2人を選んでください。

() 母 () 父 () 祖母 () 祖父 () 姉 () 兄
() その他の人 () 具体的に書いてください

(3) 食事に関するしつけをされた記憶がありますか。あるものすべてに○をつけてください。

幼児期だと思われる時期について思い出せることです。

() 「いただきます・ごちそうさま」のあいさつ () 箸の持ち方
() 口の動かし方 () 残さないで食べること () 好き嫌いをしないこと
() ゆっくり食べること () 食事中に立って歩かないこと
() 口に中に食べ物を入れて話さないこと () 料理の取り方
() その他・具体的に書いてください ()

2 現在のあなたの「食事についての考え」はどうですか。

(1) これまで(高校生まで)の食事は充実していたと思いますか。

() していた () 大体していた () 少ししていた
() 全くしていない

(2) 食事をすることは楽しいと思いますか。

() とても思う () 思う () 少し思う
() あまり思わない () 全く思わない

(3) 食事のマナーは身につけていると思いますか？

() とても思う () 思う () 少し思う
() あまり思わない () 全く思わない

(4) 栄養のバランスについて、知っていますか？

() よく知っている () 大体知っている () 少し知っている
() 全く知らない

* 以下は幼児期に通園していた学生が答えてください。

3 あなたの幼児期の通園先での食事のようすを教えてください。

(1) 幼児期の通園先を教えてください。

() 保育園 () 幼稚園 () どこにも通園していない
() その他 () 具体的に書いてください

(2) 何年間通園しましたか。

() 1年間 () 2年間 () 3年間 () 4年間以上

(3) 通園先での食事は楽しかったですか。

() とても楽しかった () 楽しかった () 少し楽しかった
() あまり楽しくなかった () ぜんぜん楽しくなかった

(4) 次の項目のうち、通園先での思い出に残っているものすべてを答えてください。

- () 食べ物(植物)を栽培した () 栽培した食べ物を収穫した
- *栽培したものを書いてください ()
- () 栽培した食べ物で料理をした
() 料理をした(材料は用意されて)
- *料理名を書いてください ()
- () 食べ物の名前を教わった () 食べ物の材料について教わった
() 食べ物での働きを教わった
() 食べ物の絵を描いた
() 食べることにする絵本の読み聞かせを聞いた
() 食べることにする紙芝居や人形劇、パネルシアターなどを見た
() 食べることにする歌を歌った
() 友達と食べることにする話をした
() 「いただきます・ごちそうさま」のあいさつをした
() はしの持ち方を教わった
() スプーンの使い方を教わった
() その他・具体的に書いてください ()

(5) 通園先での次の出来事について印象を答えてください。

	いやな思い出	覚えていない	楽しい思い出
① 食べるもの好き嫌い	()	()	()
② みんなで食べる	()	()	()
③ 料理を作る	()	()	()
④ 食べ物に関する絵本や紙芝居などを見た	()	()	()
⑤ 食べ物の栽培をした	()	()	()
⑥ 食べ物のことを話す	()	()	()
⑦ はしやスプーンの持ち方を教わった	()	()	()
⑧ 食べるのが遅い	()	()	()
⑨ お弁当に関する	()	()	()
⑩ 食べ物での働きを知る	()	()	()

(6) その他通園先での思い出があったら書いてください。

ありがとうございました。

Abstract

This research investigated "Memories" concerning "shokuiku" of college students when they were in "Kindergarten and Day Nursery".

The result was as follows;

- 1) In "Memories of the meal at time of upbringing", "The expressions used in Japanese custom for meals" was 73%, "How to use chopsticks" was 63%.
- 2) 90% of the students regarded the meal as pleasant.
- 3) 51% of the students think they have mastered the manners of the meal.
- 4) 18% of student know about the balance of the meal.
- 5) "The memories of the meal at the time of upbringing in Kindergarten and day nursery, the expressions used in Japanese custom for meals" was 78%.
- 6) "Pleasant memories were all eating together" was 85%, "Disagreeable memories were food eaten slowly" was 24%.

The result is assumed to be the basic material for the promotion of students "Shokuiku power". Furthermore, detailed investigation is due to be conducted.

Keyword="Shokuiku power" (食育実践力)